

令和2年11月つくば市教育委員会定例会会議録

1 会議日時

令和2年11月25日(水)

2 会議場所

庁舎4階 会議室401

3 出席委員

教育長 森田 充  
委員 鈴木 理子  
委員 小野村 哲  
委員 柳瀬 敬  
委員 倉田 廣之

4 欠席委員 なし

5 委員以外の出席者

教育局次長	中山 隆	教育相談センター所長	横田 康浩
教育局次長	貝塚 厚	生涯学習推進課長	伊藤 直哉
教育総務課長	笹本 昌伸	文化財課長	石橋 充
学務課長	間中 和美	中央図書館長	柴原 徹
教育施設課長	飯泉 法男	中央図書館副館長	松浦 智恵子
健康教育課長	柳町 優子	企画監	澤頭 由紀子
学び推進課長	江尻 佳之		

6 傍聴人 0名

7 議事

(1) 案 件

議案第52号 つくば市立学校給食センター運営審議会委員の任命について

議案第53号 教育に関する事務に係る議案に対する意見について

議案第54号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

## 8 会議の概要

### ◎ 開 会

午後 3 時 35 分開会

森田教育長	<p>それでは、11月の定例会を開催いたします。</p> <p>本日もスムーズに進行できますように、御協力のほどよろしくお願い致します。</p>
◎議事録の承認	
森田教育長	<p>初めに議事録の承認ですが、令和2年10月の定例分、委員の皆さまに事前に確認していただいておりますが、修正等がないようでしたら、このとおり承認するという事によろしいでしょうか。</p>
委員一同	はい。
森田教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、署名人は小野村委員にお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。</p>
◎教育長の報告	
森田教育長	<p>続きまして、教育長の報告に入らせていただきます。</p> <p>今日は2点報告をさせていただきます。</p> <p>1点目は、皆様にもDVDで見ていただきましたが、つくば市教育委員会指定の学園の研究発表会の件でございます。今回は、コロナウイルス感染症拡大防止のために、オンラインで初めて行い、Zoomでつないで、先生方全員で参加ができました。</p> <p>今回は、実際に見るのではなくて、オンラインだったのですが、全員が参加できたというところは、まず1つ良かった点かなと思います。</p> <p>高山学園と吾妻学園で授業場面や研究の趣旨、内容などを報告しましたが、委員の皆様にも御覧いただき、色々とメールなどもいただきまして、ありがとうございました。</p> <p>非常にポイントがしっかりまとめられているので、見る方も受け止める視点が、みんなばらばらにならずに良かったと思います。</p> <p>それからオンラインの研究協議では、各校代表1名が参加して、グループ協議もZoom上でやるようなこともしたのですが、非常に活発になったなど。皆さん、やはりほかの学校の人と話をすることに飢えていたのかなと感じました。非常にいい時間ができたなと思っています。</p> <p>先生方から寄せられた感想としては、移動する時間もかけることができなくて、発表をしっかりと聞くことができ、有意義な研究会だったとか、限られた人数しか参加できないのが、今年は全員が参加できて良かった</p>

事務局	<p>とか、終了後には、研究発表会で学んだことを、自分の学校でどのように取り入れられるかをその後盛り上がったというようなことで、大変好評の感想をいただきました。</p> <p>2点目、コロナウイルスの感染状況ですが、これについては外部に公表できないのですが、傍聴人の方はいらっしゃらないですね。</p>
森田教育長	<p>はい。いません。</p> <p>(感染状況について報告)</p> <p>コロナウイルス感染が再び起こっても大丈夫なように、オンラインのテストなども行って、時間割なども、そういうオンラインの準備を進めておきなさいという話はしたものですから、休校になった1日目の朝からZoomでの朝の会ができて、滞りなく学習の方も進めることができたという報告を聞いています。</p> <p>この準備の内容とかを全校長に校長会の時に配って、こういう準備をしておいたから、こんなふうに上手くいきましたよということを全校で共有して、いつでもどこでも大丈夫なように進めてきたところです。</p> <p>私の報告は以上でございます。</p> <p>それでは、本日の案件ですが、本日の案件は次第にもありますように、議案が3件でございます。</p> <p>この中で、議案第52号は人事案件、53号が議会案件ということで、この2件が非公開。そして、54号を公開として進めたいと思いたいますがよろしいでしょうか。</p>
委員一同	<p>はい。</p>
森田教育長	<p>それでは、非公開案件を先に審議して、その後に公開案件、「その他」を進めたいと思いたいますが、よろしいでしょうか。</p>
委員一同	<p>はい。</p>
森田教育長	<p>では、そのように進めさせていただきます。</p>
<p>◎議案第52号 つくば市立学校給食センター運営審議会委員の任命について</p>	
森田教育長	<p>それでは議案第52号について、健康教育課お願いします。</p>
柳町健康教育課	<p>議案第52号、つくば市立学校給食センター運営審議会委員の任命につ</p>

長	いて、御説明申し上げます。 (議案に対する説明)
森田教育長	ただいまの説明に、質問、御意見等ございましたら、お願いしたいと思 います。いかがでしょうか。  (質疑応答)
森田教育長	ほかにはいかがでしょうか。よろしいですか。 では、原案のとおり可決することに御異議ありませんか。
委員一同	異議なし。
森田教育長	それでは、議案第 52 号は原案のとおり可決することに決定いたしま した。
◎議案第 53 号 教育に関する事務に係る議案に対する意見について	
森田教育長	続いて議案の 53 号についてですが、こちらについては、まず教育総務 課からお願いします。
笹本教育総務課 長	議案第 53 号、教育に関する事務に係る議案に対する意見について御説 明いたします。 (議案に対する説明)
森田教育長	ありがとうございました。たくさんありましたが、ただいまの議案の 説明について、質問や確認事項がありましたらお願いしたいと思いま す。いかがでしょうか。  (質疑応答)
森田教育長	ほかにはございますか。よろしいでしょうか。 では、原案のとおり可決することに御異議ありませんか。
委員一同	異議なし。
森田教育長	それでは、議案第 53 号は原案のとおり可決することに決定いたしま

	<p>した。</p> <p>非公開案件は以上になります。</p> <p>次に、公開案件と「その他」ですが、傍聴人がいたら入れてください。</p>
◎議案第 54 号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	
森田教育長	<p>それでは、議案第 54 号について、教育総務課お願いします。</p>
笹本教育総務課長	<p>議案第 54 号、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について御説明いたします。</p> <p>今回作成した結果報告書ですが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項の規定に基づきまして、教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、学識経験者などの意見を付してまとめたものとなっております。作成に当たりましては、学識経験者としまして、茨城大学の加藤教授に総合的な所見及び各施策に対する意見、提言をいただきました。また、学校長会会長、幼稚園長会会長、市 P T A 連絡協議会会長からは、各施策に対する意見、提言をそれぞれいただき、作成しております。</p> <p>報告書の概要ですが、第 2 期つくば市教育プランに掲げる 14 の施策と、これに含まれないその他という形で教育局等で行っている事業を分類しまして、事業ごとに、目的を達成できた、目的を概ね達成できた、目的達成にさらなる取組を要する、目的を達成できなかった、以上の 4 段階で評価を行いました。</p> <p>評価結果としては、目的を達成できたが 62 事業、目的を概ね達成できたが 34 事業、目的達成にさらなる取組を要するが 1 事業ございました。この点検評価は、第 2 期つくば市教育プランの進行管理も兼ねるものとなっております。</p> <p>本日御承認いただいた後、12 月議会で各議員に配布する予定となっております。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>
森田教育長	<p>今の説明についての御意見や御質問等ありましたら、お願いしたいと思えます。</p> <p>では、鈴木委員お願いします。</p>
鈴木委員	<p>まず、資料が上がってきたのが昨日なので、ここで改めて言いますが、資料をもう少し早く出していただきたいという件と、この時期に</p>

	<p>なっからだと、意見を言っても参考意見ということになってしまいますので、できれば6月、7月辺りの時点で各課からの説明をいただいた上で議論をすることが必要だと思っています。</p> <p>以前の書式とは2年前くらいから変わりましたが、一長一短あり、今のものは見やすいですが、昨年も申しあげましたように、全体の予算が分かって、どの事業にどれくらい使われているかという全体が見えるものを付けていただかないと一つ一つの事業は分かるのですが、やはり全体が分からないというところが、よろしくないかなと思っています。</p> <p>この資料の最初の「はじめに」にも「市民の皆様への説明責任を果たし」とありますが、市民の方が見ても分かりやすいことと、教育予算が、どういう規模で、何の分野が全体のどれぐらいの割合でかけられているかなども明確に見えるような資料であってほしいと思うからです。</p> <p>全体的にはそういうところです。</p> <p>細かいところは、柳瀬委員お願いします。</p>
森田教育長	<p>では、柳瀬委員お願いします。</p>
柳瀬委員	<p>今、鈴木委員が言われたように、スケジュール的にこの時期は恐らく遅い。夏の間にはできていないと来年度への検討に入れたいのではないかなと思います。そういうスケジュールでやるべきだと思います。</p> <p>これは前から申しあげているのですが、事業が重複してしまう。今度の基本計画では、それを避けてほしいということを言っているのですが、例えば、生涯学習の案件で、100ページに出てきたものが、同じようにまた出てくるんです。基本施策が違うので、同じのが2つ出てくるという事例です。</p> <p>施策が違うんだから、意味付けとか評価も違うのかと言ったら、全部丸きり同じ文なんです。その辺は、今度の基本計画では整理していただきたい。これは絶対印刷ミスだろうと読む方が大変混乱します。ちゃんと理由があっってこうなっているんだということなのですが、普通は理解できません。重複しているとしか思わないので、その辺を整理していただければと思います。</p> <p>加藤先生の総合的所見の中で「執行率が低い項目については十分に見直すとともに検討をしてもらいたい」とあります。その執行率が低いところだけは説明していただいて、我々も理解を深めておいた方がいいかなと思うんです。全部というわけには恐らくいかないんでしょうが、例えば、23ページの執行率46.3%、社会を生き抜く力の中の、特別支援教</p>

	<p>育支援員配置に要する経費の執行率が低いと。どういうふうに理解したらいいでしょうか。支援員が集まらなかったということだとは思いますが。</p> <p>あと、25 ページの特別支援教育就学奨励に要する経費で、69.4%という執行率になっています。これは奨励費の支給に関することだと思うのですが、こういうのは本当に必要なのかという議論に恐らくなるので、検討が必要かなと思います。</p>
間 中 学 務 課 長	<p>どうしても人数的な把握が難しいものですから、まずは予算を立ててそれからではないと分からないところがあるので、結果的にこうなってしまったというところがあるかと思っています。</p>
柳瀬委員	<p>その想定はできないんでしょうか。</p>
間 中 学 務 課 長	<p>実際に申請していただいているものですから、きちんとこちらではアナウンスさせていただいているのですが、こちらにあるように、年度によって件数が違うということが出てきているという状況です。</p>
柳瀬委員	<p>もうちょっと分析が必要だと思います。なぜ少なかったか理由を探ってもいいのかなと思うのですが。結果がそうなったというのはよく分かるのですが、そういう意見です。</p>
森田教育長	<p>予想を多めに出し過ぎたのか、それとも、実際にもっとあるはずなのに申請そのものが少なかったのか、その違いははっきりした方がいいですね。</p>
間 中 学 務 課 長	<p>どうしても前年度の実績を基に予算を検討するものですから、ホームページに掲載と学校を通してアナウンスはさせていただいているのですが、なかなか人数の把握が難しいのが現状です。</p>
柳瀬委員	<p>前も言いましたが、申請主義なので、なかなかこちらからこれを差上げますからという働きかけは難しいのですが、ただ執行率 70%ぐらいだと、来年度減額しなきゃいけない話に恐らくなるかなとは思っていますよね。本当に必要なところに届いているんだったらいいけれどということですね。</p>

間 中 学 務 課 長	もちろんそういうこともあると思いますので、今回の 12 月補正でも計上させていただいたのと同じように、ある程度、額的に少なくなれば補正予算を計上させていただいています。
柳瀬委員	<p>分かりました。よろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、32 ページの学校教育指導に要する経費の中の研修費でしょうか。50.5%という執行率についてはどのような理由ですか。</p> <p>これは部活動と一緒にしているので、どちらなのかよく分からない。</p>
森田教育長	では学び推進課お願いします。
江尻学び推進課 長	部活動の指導員の方になります。指導員の募集をかけたのですが、なかなか集まらない状況で、執行率が下がってしまっています。
柳瀬委員	分かりました。そういうところも細かく、どうすればいいのかみたいなのが必要かなと思います。
江尻学び推進課 長	<p>県とも共同でやっている事業なので、連絡協議会等を行って、どういう方策を取っていくかは検討しているのですが、やはり条件的に平日 2 時間というのと、なかなかやっていただける人材がいらないというのが正直なところなのかなと思っています。</p> <p>ただ、これが入らなるとなかなか学校の働き方改革にもつながらないので、とにかくいい方法がないかと学校も含めて、今、検討しているところです。</p>
柳瀬委員	制度上の問題であれば、それを改善するしかないですね。
森田教育長	小野村委員お願いします。
小野村委員	同じように確認させていただきたいのですが、23 ページに戻っていただいて、今日は担当室長がいらっしゃらないので、もし回答が難しければ、また次回で結構ですので、これも 1 番、2 番、3 番のどこがということを確認させていただきたいと思います。これを見る限りでは、やはり 1 番なんではないでしょうか。1 番が増えると見込んだが、その後、増えなかった。123 人から 134 人にしか増えていないということで予算を増やし



	<p>たが、それほどということなんでしょうか。もしどなたかお分かりの方がいらっしゃればお願いします。</p> <p>では結構です。</p> <p>同じように 29 ページですが、何度か申し上げていますように、ソーシャルワーカーさんやスクールカウンセラーさんがいて助かった、とても頼りにしているという声をよく聞きます。その中で、ここでは、事業課題及び改善点の 2 行目から 3 行目にかけて、スクールカウンセラー報酬を、県基準と同額に引き上げたということで、体制強化と人員確保を図ったとあります。それによって、99.1%と非常に高い執行率が確保できたんだと思うのですが、それでももう少しソーシャルワーカーさん、スクールカウンセラーさんを学校に配置してほしいという声は、あちらこちらからたくさん聞こえてまいります。</p> <p>心配しているのが、スクールカウンセラーは県と同基準になったと思うのですが、ソーシャルワーカーさんの方が、カウンセラーさんより低かったように記憶しているんです。これは市の問題というよりは、制度的な地位が確立していないということもあると思うのですが、今後、ソーシャルワーカーさんが重要になると思うので、たぶんこの後、取り合いになるんじゃないかなと思うので、早めに予算を措置していただいて、ソーシャルワーカーさんを確保できるようにお願いしたいと思います。</p> <p>予算がある程度確保できれば、部活動も多少改善できるかもしれませんし、やはり単価というものを検討していただけたらありがたいなと思います。</p> <p>以上です。</p>
森田 教育長	教育相談センターをお願いします。
横田教育相談センター所長	<p>スクールソーシャルワーカーの重要性は、市でも十分認識しておりまして、今年度 3 名に増やして、時間を倍にということで改善を進めているところです。今、御指摘いただきましたように、増員に向けて動いていきたいと考えております。</p>
森田 教育長	今、報酬の話もありましたが、報酬はどうなるんですか。
江尻学び推進課長	報酬ですが、昨年度設定した時、県でやっている報酬よりも上乘せをする形で決定いたしました。ただ、今後は小野村委員がおっしゃるよう

	<p>に、各市町村でソーシャルワーカーの需要が増えてくると、取り合いになってだんだん単価が上がっていく可能性があるので、その部分は人事課と折衝していきたいと思います。</p> <p>また、こちらで予算的にカバーできない部分については、こども未来室でも、名称が違いますがソーシャルワーカーの様な方を今年度から3名雇用していますので、そこと連携を取りながら現在進めています。</p>
小野村委員	<p>よろしくをお願いします。</p>
森田教育長	<p>今後とも、充実に努めていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。</p> <p>ほかにありますか。</p> <p>柳瀬委員をお願いします。</p>
柳瀬委員	<p>続けさせてもらっていいですか。</p> <p>69ページの学校図書館司書教諭補助員に関する執行率が22.5%。前年度も30.3%。予算額は大きくないですが、やはりなかなか見つからないのですか。</p>
森田教育長	<p>学び推進課をお願いします。</p>
江尻学び推進課長	<p>会計年度任用職員に移行し、予算が人事課扱いになりましたので、そのためです。</p>
柳瀬委員	<p>分かりました。それであれば問題ないです。</p> <p>十分集まっているんですか。</p>
江尻学び推進課長	<p>人数は集まっています。</p>
柳瀬委員	<p>分かりました。</p> <p>90ページ、つくば未来塾の73.6%。これは、昨年度が70%ですから、少し良くなったのかもしれないですが。これはチューターが集まらないということですか。</p>
森田教育長	<p>生涯学習推進課をお願いします。</p>

伊藤生涯学習推進課長	<p>チューターさんは集まっているのですが、無償の方が多くいらっしゃいます。なので、補助金を申請しているのですが、人数の割には執行率が低くなっています。地域の方で無償でやっていただける方が非常に多くて助かっている部分ではありますので、人数は決まっているので補助金申請をして実施しているところですが、どうしてもこういう形で不要額が出てしまうという形でございます。</p> <p>以上です。</p>
柳瀬委員	<p>分かりました。そういうことであれば、問題ないかと思います。</p> <p>続きまして、96 ページの生涯学習で家庭教育支援に要する経費が60.6%ということですが、これはどの部分なのでしょう。</p>
伊藤生涯学習推進課長	<p>家庭教育学級です。幼稚園5万5,000円、小学校・義務教育学校（1年生～4年生）で5万円、中学校・義務教育学校（5年生～9年生）で2万7,000円の講師謝礼を含めて消耗品等の補助を出しています。各学校等での家庭教育学級の配分額より、講師謝礼支払いが少なく、例えば、中央図書館の司書を講師として呼んでいたり、健康教育課の栄養士を呼んでいる、消防士を呼んで救急救命をやったりと、庁舎内の職員を使っているなどで不用額が出ています。</p>
柳瀬委員	<p>分かりました。その分、何かボリュームアップするとか、そういうことができないかどうか。要するに謝金をもらえない立場の人が、講師とかで出ているということですよ。</p>
伊藤生涯学習推進課長	<p>そういうことです。実数的には減っているわけではなくて、そういう方を御活用いただいている状況ということです。最初に各家庭教育学級に配分する額というのは、使ったところから予算を差し引いていくというやり方は賢くないと思っていて、確定額でお渡ししないと実際に使えない状況にあると思います。最初にこれだけは使っていいですよという額を家庭教育学級にお渡しをして、その範囲で使ってくださいとしているのですが、お安い方を使っていたりとか、例えば筑波大の大学の教授だと1万5,000円払うが、一般の学識経験者は7,500円というようなランクがあって、金額の割り振りがあつたものから、そういったところで配分した額をいっぱい使っていないというところがございます。</p>

柳瀬委員	<p>分かりました。使い勝手優先じゃなくて、もう少しバラエティーに富んだというか、先日ちょうど芸術文化の資料も見せていただいたりしたのですが、この辺は文化とか、芸術文化の領域まで拡大してもいいのかなと思うんです。</p> <p>もちろん、防災とか、そういう講師を呼んでくることは大事なのですが、もうちょっと可能性を広げてもいいかなと私は思います。</p>
伊藤生涯学習推進課長	<p>芸術文化に関しましても、十分に使ってくださいということで、例えば、力士さんをお呼びしたり、和太鼓の方をお呼びして太鼓を叩く体験など、伝統文化の伝承を大きな柱にしておりますので、今後ともそういう形で活用できるように推進したいと思います。</p>
柳瀬委員	<p>よろしく申し上げます。</p> <p>すみません。執行率だけを見て言っているのも、きちんと説明できるようにしていれば、大丈夫だと思います。</p> <p>最後に 129 ページの特別活動等に要する経費ですが、これは陸上競技大会、記録会とかができなかったからでしょうか。</p>
間 中 学 務 課 長	<p>おっしゃるように開催方法を変えたためです。この予算を立てる段階では、まだそこまで決まっていなかったもので、前年どおりの予算を計上したために執行率が悪くなったという形でございます。</p>
柳瀬委員	<p>ありがとうございます。私の方からは、執行率だけを見て質問させていただきました。</p> <p>でも、本来ならば各事業について、もう少し丁寧に説明していただいて、教育委員としての意見を言えたらなと思いますが、来年度以降、もう少し時間が取れるように、よろしく申し上げます。</p> <p>私からは以上です。</p>
森田教育長	<p>ありがとうございます。ほかにはございますか。</p> <p>小野村委員お願いします。</p>
小野村委員	<p>私からは 31 ページなのですが、ここでは、幼稚園での教育活動ということで研修等だと思うのですが、84.9%ということで、いま一つかなという気がします。</p> <p>ここに、事業の課題及び改善点として、「教諭の研修は、夏季休業日</p>

	<p>に行われる研修に参加しているが、同時期に受講したい研修会や講習会が多く参加できない」とあります。これはとても残念だなと思っていて、実際は、その時期に重なって忙しいというのも分かるのですが、この間の研修会の様に例えば、ウェブを使うと、毎日わざわざ移動しないで、放課後の本当に 30 分でもいいと思うので、そういう短い時間を上手く使ってウェブでの講座ができないかなと思っています。</p> <p>県の教育研修センターで木村校長先生とか、東京の校長先生をやっていらっしゃった工藤先生とか呼ばれて講座をやって、今、誰でも見られるようにしていると思うのですが、ああいう形でやると、非常に効果が上がるんじゃないかと思います。この残りの 15%を上手く使って、そういった形での研修なども検討いただけたらいいんじゃないかなと思いました。</p> <p>以上です。</p>
間 中 学 務 課 長	<p>今の状況から言うと、いろいろな部分でウェブ会議等が出てきたかと思うのですが、元年当時のことなので、これからは、きっとそういうことも視野に入ってくるんじゃないかなと思います。</p>
小野村委員	<p>この段階では、もちろんそうですよね。今後の策として検討いただければと思います。</p>
森田教育長	<p>ほかにはございますか。</p> <p>この執行率が低い部分について、確かにこれを見る人からすると、何で低いのかというのがどこにも説明がないと分からないので、何だかやっていないんじゃないかと思われる可能性もあると思います。なので、今年度のものには、執行率が低いのは、こういう理由で実際にはこのようにできているので、概ね達成できているというような成果の書き方をして、工夫する必要はあると思います。執行率が低いまま、概ね達成と書いたら、「なぜ」と思うかもしれないという気はしますので、そこを考えさせていただきたいと思います。</p> <p>ほかにはございますか。よろしいですか。</p> <p>では、倉田委員お願いします。</p>
倉田委員	<p>一つ一つ、私も見させていただいたのですが、それぞれ説明していただいた方が、よりもっと煮詰まるのかなと感じました。</p> <p>ただ、これからも、例えばコロナ禍の中で、新たに考えなくてはなら</p>

ないとか、検討しなくてはならないものとか、その社会情勢において重要視しなくてはならないとか、または新規にやらなくてはいけないものなども、多々出てくると思うのです。だから、そこら辺も踏まえての予算立てということも今後、ぜひ考えていただければと思います。

例えば、先ほども柳瀬委員からもあったように、特別支援での援助の執行率が低くなったと。これは、今までだったら家庭の状況について学校で把握できている可能性が高かったと思います。今の環境では、学校で一人ひとりの子どもの家庭環境とかも把握しにくい状況で、非常に難しいと思います。だから、その子どもがおかれている環境を把握しにくい状況が、今の世の中では、一人ひとりに対応しなければならない教育を困難なものにしているのかもしれない。そのために、適切に、一人ひとりにピンポイントで関わることが非常に難しくなっている。その状況で、お互いの連携が上手くいかないことによって、そのようなデータになっている場合も中にはあるのかなと思います。

そういうことを正確に把握することが難しい状況というのが、私が一番懸念している状況です。だから、そこら辺の在り方を見直すべきだと思います。

家庭訪問も、今はしないでくださいという状況なので、本当に保護者と教育者がどういうふうにつながって、一人の子どもを育てていくということでの共通理解、共通実践というの、少しでもできるような環境づくりも検討していく必要があると思います。施策の中にも、今後も具体的に新しく取り入れてもらうこともいいのかなと私は思っています。

あと、私も園長を何年かやっていたので、園長の時には私が講師になるなどして園内研修を定期的に行いました。外に出向く環境がなかなか今、難しいので、そういう面では各園で工夫して、中で充実していると思います。先ほどあった情報を発信できるようなもので、各園の取組も見られるようなことをやっていくことも、今後必要なのかなと思います。常時状況が見られるようにICT等を使ってやっていくことが今後の課題かなと思いました。

あとは、外部人材を活用しての運動部活動も非常に難しいと思うのです。人材確保がしにくいと思います。校長の考え方を分かっている、上手く機能するような、そういう方向も視野に入れて人材を確保しないといけないので、本当にそういう意味での学校教育方針の理解者というの、必要なのかなと私は思うのです。

社会とのつながりで学校がどういうふうにしてその人材を確保していくかというのは、これからの課題だと私は思います。そこら辺も構築できる

	<p>人材の発掘と協力体制の整備というのを検討していく必要があるのかなと感じました。</p> <p>細かく色々言うと切りがなくなってしまうので、本当にそれぞれの課題とかもあるので、一つ一つ項目を見た方が、いい議論ができるのかなと。</p> <p>先ほど、幼稚園の研修の話をしました。私立幼稚園や保育園と公立幼稚園との連携が上手くいってないと思うのです。研修の場も全部共有できるような連携をこれから作って、義務教育につなげていければとつくづく感じています。そういう面での温度差が少しでもないような、そういう連携の在り方というのも今後検討して事業化していくのもいいのかなと感じました。</p>
森田教育長	<p>ありがとうございました。本当に大事なポイントです。</p> <p>今日、県の幼小連携推進室の室長がいらっしゃったのですが、やはりウェブで研修等の情報発信をしたりしているのですが、まだそういう情報発信が弱いかなと感じていますので、県とも連携しながら、良いものはどんどん活用していきたいなと思います。</p> <p>今回DVDにしたものを小学校に配ったのも一つ大事なポイントだったと思います。小学校の先生も、幼稚園の指導を見るという意味で、すごくいい材料だったかなと思いますので、今後も、今ありましたように、ICTなども十分に活用してより良い連携を考えていければと思います。</p> <p>ほかにはいかがでしょうか。</p> <p>鈴木委員お願いします。</p>
鈴木委員	<p>3つほど。</p> <p>1つ目、幼児教育についてですが、市の教育の中で、幼児教育にももう少し力を注いでもいいところかと思えます。現場が忙しいことは大変よく存じているのですが、例えば国立大の附属幼稚園は継続的な研究をなさっているところで、そういうところに一度でもいいから、どういう幼稚園の教育をしているかをぜひ見に行ってくださいとだいぶ感じるものがあると思います。そこは、これからウェブでできるかどうか分かりませんが、できれば足を運んでいただきたいところではあります。</p> <p>2つ目は、今回、この評価シートで評価することも難しい作業ではあるのですが、まずはこの指標目標の設定を十分検討していただくということが大事かと思えます。それで執行率とかも変わってきますので。</p>

	<p>3つ目は、縦割りの事業の評価を私たちは見ているところですが、ぜひ全体で、その事業単独の評価ではなくて、つくば市の教育の中で、あるいは教育予算の中で、その事業が必要なのか、見直しが必要なのか、予算をかける必要があるのかということ全体を俯瞰で見ていく必要があると思っています。そうでなくても時代の流れが速い昨今ですので、必ず、当時は意味があった、価値があった事業でも、一定の役割を終えて、もう要らないんじゃないかというものもあると思います。</p> <p>これは要らないとは思っていませんが、例えば学びの広場の事業については、44 ページで特に課題はないと書いてあって、確かにその事業については課題がないんだろうと思うのですが、以前いらした永井先生は、塾とかではなく、学校の中で先生が十分に教えられる環境が必要だと思っていますとおっしゃっていました。学校の授業とそのサポート事業とのどちらにお金をかけるのか、学校をもっと充実させるためにお金をかけた方がいいのか、それともサポートするところにお金をかけた方がいいのかということは、もうちょっと事業単独ではなくて全体として、つくば市がどういう方向に行くかということを考えなければいけないことだと思います。そういう意味でも、課の中でつくば市の教育をどういうふうにやっていくかということ、たびたび議論を重ねる必要があると思っています。</p> <p>以上です。</p>
森田教育長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それぞれの委員から大事なポイントが出されましたので、この評価の前に、まずそういう事業をどう考えるかというところは、これからもスクラップアンドビルドアンド新しい発想でやっていきたいと思っています。</p> <p>それから、最初に鈴木委員から指摘がありましたように、点検時期について、それから全体の予算構成も分野ごとにある程度分かるような形、資料は早めに出して見せてくださいという3点についても、来年改善できるように、それぞれ頑張ってくださいと思っています。</p> <p>ほかにはよろしいですか。</p> <p>では、原案のとおり可決することに御異議ありませんか。</p>
委員一同	異議なし。
森田教育長	それでは、議案第 54 号は原案のとおり可決することに決定いたしました。



◎その他	
森田 教育長	<p>時間がだいぶなくなってしまったのですが、「その他」に入りたいと思います。何かありましたら、お願いしたいと思います。</p>
笹本教育総務課長	<p>1点御報告させていただければと思います。</p> <p>現在、ホームページを活用した情報発信を、教育総務課で進めさせていただいています。ホームページについては、学び推進課で作成したホームページがありますので、そちらを活用して、教育局各課で各課の業務もしくは活動などを気楽に投稿できるようなスタイルを検討しています。</p> <p>また、教育広報ということで『つくばの学び舎』を誌面にて発行しておりますが、こちらについても、今後はホームページ等を活用した形での発信についても検討していければと考えております。</p> <p>以上です。</p>
森田 教育長	<p>以前から色々御意見いただいたところなのですが、何をやろうとしているのか、なぜやろうとしているのかというのが、もっと伝わるようにしていきたいなということで、今の説明のとおり進めていきたいと思っております。また御覧になって、色々御意見がありましたらお願いしたいと思っております。</p> <p>では小野村委員、お願いします。</p>
小野村委員	<p>先日、秋の行政事業レビューというのが行われていたと思うのですが、その中で、私びっくりしたのですが、このICT化を進めていく中で、教職員の人員削減ということが財務省から出ていたと思っております。</p> <p>まず1つ思ったのが、あれを聞いた時に、先生方がやる気をなくさないかなというのがとても心配で、もう1つは、この間のDVDを見ていても、私たちの時代とは確実に授業が変わってきているなということを感じました。</p> <p>ここを忘れているなと思って、この間の行政レビューを見ていたのですが、一斉授業で講義型であれば私も1対100でもできますが、今、授業のやり方がああいうふうに変ってきて主体的な学びと言う以上は、私は4人×9の36人というのは、1人の先生でやるのには、かなり無理がある数字で、授業形態が変わってきているんだから、それを考えないで人員削減ではなくて、せいぜい私は4×6=24人ぐらいが、目一杯だろうと感じています。</p>

	<p>河野行革大臣も、萩生田文科大臣も、そういうことはしないということをおっしゃっていますが、やはり今までそういった学習を先進的に進めてきたつくば市としても、やはり今までと授業形態が違うということをしかりと訴えていかないと、この先、どういう折衝になるのかとても心配をしておりますので、その辺、しかりつくば市の教育委員会としても、下から訴えていけたらいいなと思っております。</p> <p>以上です。</p>
森田教育長	<p>減らすなんていうのはとんでもないと思うのですが、私はどちらかというと、そのクラスの人数よりも、まずは先生の数を増やして、この36人のクラスを2人の先生が見るようにした体制づくりの方がいいんじゃないかと思えます。というのは、今のままでクラスの人数を減らしていくと、今、総枠で決まっている教員を使って全員を担当にしてクラスを作っていくことになってしまう。それよりも、ある程度クラスの数よりも多くなるように教員を配置して、余裕のある先生を増やしておいて、いざという時にその人がやるとか、あとは教科によって分担するとか、先生の授業の時間に余裕があるような構成にした方がいいんじゃないかなと思っています。</p> <p>ですから、ただ単にクラスの人数を30人に減らすと上手くいくとか、そういうふうに簡単にみんな世の中で議論されているような気がして、そこはもうちょっと考えないといけないんじゃないかと思っています。</p> <p>とにかく、今おっしゃられたとおり、あの36人のグループ協議を1人の先生が見るのは大変ですよ。できるだけスタイル科は2人の先生で見られるようにはしています。その辺の工夫はしているのですが、実際に今後を考える時に、そういう全体をもうちょっと考えていただければなと思っています。</p>
小野村委員	<p>私は、ずっと不登校の子どもたちの支援をしている時に、ああいう形の授業は今後必然で、あの方向に進んでいくしかないと思うのですが、4人中で1人ぐらいどうしても浮いてしまう子がいると、その時に、1人の先生ではどうにも回しきれない。そのあたりも考えていかないと、あの方向は決して間違っていないと思うし、この間の授業は良かったと思うのですが、その辺も財務省にしかり訴えていかないといいなと思っています。</p>
森田教育長	<p>そのとおりですよ。</p>

	<p>今、私もあの授業を見て、先生方へ出すメッセージを書いているのですが、あのような話し合いの授業をする際には、どんな話し合いの仕方をしたらいいのか分からない子とか、苦手な子がいた時に、どう子どもたちは関わってやるべきなのかということをご指導することが大事だと思います。ただ、さあやりましょう、活発にしましょうだけだと、その辺が見逃されちゃう可能性があるのかなと思っています。そういう子どもたちが話し合うスキルとか、書くスキルとかもしっかり見極めながら教えていってあげるといいのかなと思っています。それにしても人数が多くて大変だと思います。</p> <p>教育相談センター長、何かこの辺で言うことはありますか。</p>
<p>横田教育相談センター 所長</p>	<p>この前の研究発表会では、やはり先生方から非常にいい評価が聞かれました、今回コロナ禍ということではあるのですが、確実に教育の形が変わってきていると感じました。</p> <p>本日も指導主事が学校に見に行きましたら、先生がもう自然にZoomを使って授業をしているんです。</p> <p>大きな画面に子どもたち一人ひとりが映ってやりとりをしながら、あたかもそこに生徒がいるような形で先生がごく自然にやる様子を見て、本当に衝撃を受けました。ちょっと取り残された感があって、現場はもう先に行っているなという印象をすごく受けました。先生方がすごく工夫しながら実際にある機械を使いながら子どもたちとやりとりをしている様子を見て、本当に変わってきているなという実感を受けております。</p>
<p>森田教育長</p>	<p>Zoomを使って講義形式でやっているんだったら何も意味がないのですが、Zoomを使ってもちゃんと対話をしているというのが、だいぶ変わってきたところかなとは思いますが。</p> <p>教えから学びへというところについても、そういう意識が高まってきているんじゃないかなと思います。</p> <p>倉田委員お願いいたします。</p>
<p>倉田委員</p>	<p>ただ、Zoomだけでは本当の人間関係は学べないと思います。人は直に対面して初めて感じるものがあるので、そういうものを大切にしていけることもやはり忘れてはならないと思います。</p> <p>ですから、教育長が先ほどおっしゃっていたように30人以上のクラスは、必要だと思うのです。やはり多くの子どもたちと少しでもスキン</p>

<p>森田教育長</p>	<p>シップして違いを感じて、子どもたちが自分はどういう特性なのかを知ること大切だし、自分はどうすればいいのかを考えるために、色々な経験とか機会を与えてあげることが、私は必要だと思います。バランスがあると思うので、ICT等も活用しながら、スキシップもできるような工夫をしながら直に交流できるものもやっていく必要性も忘れないでいただきたいなと思います。</p> <p>それが学校のある存在意義ですもんね。そこは大事にしたいと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>時間がきましたので、よろしいですか。</p> <p>では、以上をもちまして11月の定例会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。</p>
--------------	---

◎ 閉 会

午後5時10分閉会宣言